

四肢血管撮影における等浸透圧造影剤の有用性について

¹横浜南共済病院、²横浜南共済病院、³横浜南共済病院

小笠原 純¹、狩野 聡¹、池上 匡¹、橋山 直樹²、孟 真²、藤井 洋之³、西崎 光弘³

【目的】従来の低浸透圧造影剤に比べ、等浸透圧造影剤は熱感・疼痛が軽減できるとされており、造影検査における患者の精神的・肉体的苦痛の緩和に期待できる。今回われわれは、下肢血管造影検査を行なう患者を対象にアンケート調査を行い、造影効果・副作用等々の検討も含め本剤が有効であるかその結果を報告する。【方法】熱感・疼痛の調査は、低浸透圧造影剤と等浸透圧造影剤を使用し、アンケート形式で比較調査を実施した。熱感・疼痛の程度は評価基準（4段階評価）に従い判定し、F検定・ウィルコクソン順位和検定にて有意差検定を行なった。造影効果の比較調査は、ヨード含有量でどれだけのコントラスト差がでるのか独自のファントムを作成し比較実験を行いマンホイットニ検定にて有意差検定を行った。画像評価は、臨床画像をもとに放射線技師と医師が読影し、4段階評価基準に従って点数をつけウィルコクソン順位和検定にて有意差検定を行った。【結果】症状の比較調査は、熱感・疼痛ともに等浸透圧造影剤が低浸透圧造影剤に比べ有意に軽度であった。造影効果の比較調査では、ヨード含有量 300 と比べ 320 の方が有意にコントラスト分解能に優れていた。視覚評価においては、両群間に有意差は認められなかった。【結語】今回の調査結果により等浸透圧造影剤は、造影効果が低浸透圧造影剤と比べ遜色なく、熱感・疼痛の軽減において非常に有用性が高いことが確認された。さらに、症状の軽減によって患者の体動を抑え、良好な DSA 画像が得られることが期待でき、有用と考えられた。